

都市農業振興計画中間見直し検討委員会 第2回会議 要録

- 日時 令和8年1月28日(水) 10:00～12:00
- 場所 和光市役所 404会議室
- 出席者 1号委員 郭 洋春 (都市農業に関する専門的な知識経験を有する者)
2号委員 田村 敏 (和光市商工会)
3号委員 金森 貴子 (和光市都市農業推進協議会)
3号委員 田中 陽平 (和光市都市農業推進協議会)
4号委員 清水 永悟 (あさか野農業協同組合)
5号委員 福田 佳人 (公募)
- 欠席者 0人
- 傍聴者 0人
- 事務局 市民環境部長 渡辺 正成
産業支援課長 高橋 契将
産業支援課課長補佐 大里 裕美子
産業支援課農業振興担当統括主査 内藤 篤
産業支援課農業振興担当 今野 陽子
産業支援課農業振興担当 大久保 友貴

1 開会

2 挨拶

産業支援課長挨拶

事務局 自己紹介(初回出席者)

3 議事

議題第1号 和光市都市農業振興計画中間見直し(素案)について

【郭委員長】

議題第1号 和光市都市農業振興計画中間見直し(素案)について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

説明いたします。前回の第一回会議を経て作成したアンケートを実施し、そのアンケート結果を踏まえて、計画見直しの素案を作成しました。

最初に目次を見ていただいて全体の構成について説明します。

第1章は中間見直しについて、中間見直しの背景と目的、計画の位置づけについて掲載しています。

第2章では、和光市農業の現状と課題として、農林水産省のデータなどをもとに和光市農業の現状を掲載しています。アンケートの集計結果、和光市の主な課題を掲載しています。

第3章では、和光市農業の将来像、施策体系のこれまでの評価・重点施策についての感想を掲載。次回の計画策定にむけての修正の方向性を掲載しています。

第4章では、計画の推進に向けて、計画推進体制、計画の進行管理を掲載しています。

最後に資料編として中間見直しの過程、名簿、設置要綱という構成になっています。

本日の会議でご意見等いただきたいポイントはアンケート結果から導き出した和光市農業の主な課題（第2章の3番）と、次回計画策定にむけての修正の方向性（第3章の2番）です。

それでは中身について説明します。

（素案 p1～5 まで読み上げ、アンケート結果について、設問とコメント欄の読み上げ）

（素案 P29、30 和光市農業の主な課題を読み上げ）

説明は以上です。

【郭委員長】

事務局からアンケート結果と、和光市農業の課題について説明いただきましたが、委員の皆様からご感想や、こんなことも課題として入れてほしいなど、コメントがございましたらお願いします。

【清水委員】

課題の1～4すべて、これは和光市だけでなく都市農業全体に言えることだと思えます。なかでも4番の農業への理解の醸成は、都市農業は農業団体とか、先住者とか関係なく、共存する必要があるんだと思います。理解醸成をしっかりと、取組をさせていただけたらと思っています。

あさか野農協は4市を管轄してしまして、志木市は荒川沿いで、お米を栽培していて、野焼きもしています。それで、市民からお叱りをいただくのですが、病害虫を押さえる効果があるので、そういうところも含めて、地域住民の方にも必要な過程であることを理解してもらって、都市農業の振興に努めてもらえたらと思っています。そのためにも理解醸成というのは大事な課題なのかなと思います。

【郭委員長】

事務局これについてはいかがでしょうか。

【事務局】

市街地の中に農地があるので、畑の砂埃や葉っぱが散らかっているなどの苦情を受けることがあるのですが、苦情が入った場合には、市の対応として、農家さんに伝えないといけないので、連絡しています。内容によってはこのくらいは仕方ないのかなというものもあり、できれば市民の方にご理解いただきたいようなものもあります。

逆に、雑草が繁茂したままの農地や、農地から流れ出た土を道路上に放置したまま、伝えても対応していただけない例もあつたりするので、おっしゃる通り、共存するためにどちらか一方がではなく、市民と農家の両方に理解醸成が必要なのかなと思います。

【福田】

課題4の農業への理解の醸成と交流の活性化についてですが、小学生に農業体験をやらせてもらって、じゃがいもでも大根でも、キャベツでも良いのでテーマを決めて小さい子が勉強すると、また違ってくるんじゃないかな。

アグリパークの話になるのですが、アグリパークに来るバスがなくなって、その影響で市民農園を辞めてしまった人もいますよ。本当は送迎バスを作ってもらえたらいいんですけど、市民農園に興味があるけど時間が無い、遠いという意見が多いので、そういったものをつくらないといけないのかなと思います。

物を運んだりするので車で来るのが良いんですけどね、せっかくアクシス、福祉の里、農業体験センターと施設があるので、バスに来てもらいたいです。

それと、アグリパークでは色々な形のイベントをやっているんで、LINEとかでPRしてもらえたらと思っています。

【郭委員長】

小学生の農業体験、アグリパークについて何点かご意見いただいておりますが、バスについてはどうですか。

【事務局】

バスについては乗降客が少ないという理由でルートが変わった経緯があります。北側に、アクシス等施設があり、これから区画整理もありますので、そちらにもバスが行くよう事務局からも申出はします。ただ、すぐに復活というのは難しいと思います。

【郭委員長】

小学生の農業体験についてはどうですか。

【事務局】

学校によって、学校農園というのがありますが、子どもの安全面からも、学校から近い農地を借りなければいけなかったりと、学校の為の農地を確保するのが難しい状況にもあります。それと、学校の方からの依頼で、アグリパーク体験センターで農家さんがほ場見学を紹介する事業がありましたよね。

【福田委員】

農家が毎年、耕運機やトラクターを使って農作業を小学生に見せる見学会がありますね。

【郭委員長】

どこの学校が、こういう農業の見学の活動をしていますよといったことは他の学校などに広報活動をしていないんですか。

【事務局】

広報活動はしていませんね。

【郭委員長】

そうすると、和光市としてはそういう事業があると知っているけども、各学校は知らないかもしれないですね。他の学校も農業見学の課外授業をやっているということがわかれば、関心を持ったりする可能性はありますよね。

【金森委員】

私の娘が中学校の頃に、職業体験で農業の体験をしたんですよ。その中でじゃがいもをたくさん採ってきて、泥まみれになって。なので、農業体験の課外授業は小学校だけではなく、中学校でもやってもいいのかなと思います。

【郭委員長】

中学校も職業体験をやっているんですか。

【事務局】

やっています。ただ、職業体験の募集をかけるんですけども、農家さんはなかなか応募が無い状況です。

【福田委員】

体験センターで収穫体験をやっているんですが、過去に2年連続で冬じゃがいもの出来が良くなかったことがあって、その時に第二中学校、大和中学校、第三中学校に10人ずつボランティアをお願いしたことがあるんです。ボランティアに来てくれた子たちには大根をあげたんですよ。それで、大根は葉っぱも食べられるんだよと言ったら驚いていて、あとでお母さんからありがとうございますと連絡も貰って。そういうような形で何か農業に関わってもらいたいなと思います。

【郭委員長】

そうすると、行政がそういった活動の情報収集して、発信できれば、市民の農業理解にもつながっていくと思いますね。情報の収集と発信は大きな課題の一つになると思います。

それと、アンケートの回答から、援農ボランティアの需要と供給の割合として、手伝ってほしいと手伝いたいの数値としてのバランスはアンバランスなんでしょうか。需要も供給もあるけどマッチングしていない状況なのでしょうか。

【事務局】

回答の数値で見ると、一定数マッチングするように思えるのですが、過去の経緯などを見ると、マッチングしても年に1~2件、または0件という状況です。それと、マッチングした過去のケースも、1回目は手伝いに来るけど、2回目から来ずに、連絡しても通じなくなってしまうと聞いています。

お金が発生しない分、無責任になってしまったのではないかと思います。なので、全く同じやり方で、援農ボランティアを再開しても、同じ状況になってしまうのではないかなと思います。

【福田委員】

お土産があった方が良くないですか。農家の人から出来たものあげないと、ただ手伝ってくれというのは続かないですよ。何か渡せるものがあれば一番いいと思うんですよ。

【事務局】

確かにそうですが、ボランティアなので、本来は見返りを期待するものではないんですけどね。

【田中委員】

アンケートの中で農家さんがやってほしい作業の回答があるんですけども、種まきは考えながらやらないといけなかったりするので、求める作業のハードルを下げていくと除草に行きついてしまうんだと思います。除草が好きならいいんですけど。

【福田委員】

最初に除草も収穫もやりますという予定表を作ったら良いと思います。除草だけやってほしいというのはなかなか難しい。これを植えたから、できたらもらってくださいと言ったら、また違うんじゃないかな。1年間でこういう作業しますと決めて、できたものを差上げますとしないと集まらないんじゃないかな。

【田中委員】

一番やってみたい作業は収穫でしたっけ。収穫は1, 2回やっただけでは身に付かない作業なので、それであれば責任を持って雇用という形という方向に行きつくのかなと思います。

【郭委員長】

需要と供給が一定数あるなら、問題はどやって両者の考えを一致させる工夫をどうするのか。そこを考える必要がありますね。

お願いする側にしても ボランティアがやりたい仕事についても提供してもらうすり合わせをする機会が必要ではないでしょうか。そのニーズが次回へのやりがいに繋がる仕組みを作ることが必要じゃないかと思います。

ただやってくださいだけだと、両者が不幸なことになってしまいますので、市がやるのか、もしくは別に援農ボランティアを動かす組織を作るのかどうかはわかりませんが、丁寧にやるのであればそういう作業も必要だと思います。

収穫だけでなく、除草というものが農業にとって大事なものだということが理解してもらって、収穫についても経験を積まないといけないということも理解してもらおうと思います。

【金森委員】

援農ボランティアをやることで、そこにコミュニティが生まれるんじゃないかな。受け入れる側も、継続してもらえようような努力が必要だと思います。

【清水委員】

農家側は除草をやってもらいたいけど、ボランティア側は収穫をやりたい。ここでまず乖離してしまってるんですね。ですので、郭委員長がおっしゃる通り。やりたい人に、やってもらいたいことを丁寧に説明して、除草もあります、種まきもあります、収穫もあります、これが農業です。そこをしっかりと理解してもらったうえで、援農ボランティアどうですかと説明すれば、両方が不幸になることが無いと思います。

説明を聞いて、やっぱりやりたくないという人もいるでしょうし、それでもやりたいという人は是非お願いしますとなると思います。野菜がもらえるから来ましたという安易な気持ちで来ても、長続きしないし、ボランティアでタダなんだから辞めたって良いよなって思われちゃいますよね。

なので、丁寧に説明して、うまくマッチングするのが必要不可欠だと思います。

【郭委員長】

では、そのあたりは事務局の方でアイデアを考えていただけたらと思います。

他に課題のところでご意見等いかがでしょうか。

【田村委員】

担い手の育成の所なんですけど、小学生に体験させたりするもの良いと思います。

そもそも和光市には農業だけで生計を立てている人はいるのでしょうか。

【事務局】

和光市はみなさん兼業です。

【田村委員】

新規就農者の担い手といっても、自分の農地じゃないところで、農業だけで生計が立てられないとなると、担えないですね。生活できないところに向かっていくのは難しいのかなと思います。農業一本だけで生活できている人がいれば、参考にしてじゃあやってみようかなとなると思うんですけど。

体験するのは良いと思いますし、最終的には和光以外のところで就農するのもかもしれませんけども。

【金森委員】

埼玉県も広いので、北の方では新規就農者が増えているという情報があります。和光は農地が少ないところがネックになっているんじゃないかなと思っています。ただ、新倉の北の方は産廃業者とか駐車場の中に畑があって、消費者としては業者とかは他のところに移動してもらえないかなと勝手ながら思っています。

農業無くして私たちは生きていけないと思うんです。自分たちも自宅の日の当たらないところでサツマイモ育てて、ツルまで食べられて、サツマイモってすごいなって思いました。

【郭委員長】

田中委員は実際に農業されていて、将来のことはどう思いますか？

【田中委員】

和光市の計画次第かなと思います。区画整理で和光高校周辺の農地はかなり減ってきていて、個人の力では計画には抗えないので、それを見ながらどうしようかなと考えている農家が多いんじゃないかなと思います。

【福田委員】

国の政策が、農地を守ろうとしていない。あれだけ休耕地があるのに使おうとしない。私も田舎の方に休耕地があって、もう売却してしまったんですけど、使おうとしないんですよ。和光市も畑が減っているのに区画整理するのが本当に良いのかなと思いますよね。

税制とか色々な問題があって、国がどうしても農地を残すんだという方向にもっていかない限り難しいなって思いますね。

(和光北インター土地区画整理の資料配布)

【郭委員長】

ただいま事務局から資料が配られましたので、説明をお願いします。

【事務局】

こちらは都市整備課で作成している資料で、ホームページにも掲載されているものですが、254バイパスが、和光北インターの東部から和光高校を超えていきます。周辺に公共施設が色々あるんですが、大規模な流通経路を持ってこようと考えているようです。

こちらの区画整理区域内について地権者に組合が説明をしているんですが、近隣の地権者や施設事業者には説明していない状況でしたので、都市整備課に、周辺地域の皆様にも、説明会を実施してもらえないかと声をかけています。

来年度以降、地域住民等に向けた説明会を開いて周知を図っていくという回答をいただいています。

老朽化に伴う清掃センターの建て替えなどで、アグリパーク周辺の農地についてもかなりの面積が無くなってしまい、減少はストップするのは難しい状況です。

市の農業担当としても、都市部の農地の減少を止めることは難しく、遅らせることしかできない厳しい状況です。

【郭委員長】

図の紫のところは全部農地ですか。

【事務局】

紫のところはほぼ農地です。黄色の部分は住居となる地域です。

【郭委員長】

道路が出来たら南北は行き来できるんですか、道路で寸断されてしまうんですかね。

【事務局】

主要道路は交差点で行き来ができますが、狭い生活道路は一回迂回させてから接続するような形になります。道路ができると交通量が増えますので、事故など起こらないような形で埼玉県が考えているようです。

【田中委員】

トラクターだと30キロ出るものもあれば、15キロしか出ないものもあるので、南北で農地を持っている方は大変ですね。

【郭委員長】

行政の力が上回ってしまって、農家さんはそれに従うとなると、非常に辛い立場になってしまうと思います。土地区画整理事業で和光市としてどうしたいのか、農家さんは農業をどうしたいのか、早急に協議できる場があった方が良いでしょう。

【田中委員】

農家ごとの意見もかなり違うと思いますね。

【郭委員長】

他にご意見はありますか。

それでは無いようですので、次の説明をお願いします。

【事務局】

「第3章 和光市農業の将来像」について説明

「第4章 計画の推進に向けて」について説明

【郭委員長】

事務局から説明がありましたが、修正の方向性のところで、委員の皆様からご意見等ございますか。

【福田委員】

今ある農地を維持するのも大変なくらいなので、国の政策として検討すべきですね。税制の問題とか。

【田村委員】

和光市は土地が高いので大変ですね。新座とか志木に行くとまだ土地があるんですよ。だから和光市だけで考えるのではなく、農地を維持するのも難しいとなると、広い視野で4市で考えるのはどうかなと思うんですが。

【金森委員】

人口も減っているんで、4市が合併することも視野にいれる必要があるのではないかと思います。

【郭委員長】

合併の話があったんですか。

【事務局】

平成15年頃に住民投票までありました。

【金森委員】

和光市は税収が多いということで反対だったんですね。今はお金が無いということだから合併が必要なんじゃないのかなと思いました。

【清水委員】

国としては地域計画であるべき姿にして、合理化を図って農地を残そうとしているんですね。

ただ、農地は合理化というだけでなく、先祖代々受け継いできた土地でもあるので、目の前に同じ一反があったとしても、人の想いが入っているんで簡単には他人の土地を耕作するというのは受け入れられない状況もあり、集積、集約といっても上手くいってないんですね。そのあたりが国の政策と、農家の想いが乖離してしまっているところですよ。

食料安全保障では安定的に生産して、それでも駄目だったら、輸入にも頼むということになっているんですが、生産を増やさない限り安定的に流通しませんよね。農業者からしたら生産資材は高くなっているのに、農作物に関しては国民は高いお金をはらうのは嫌で、合理的な価格は安価じゃないと駄目という話になっている状況ですよ。

皆が理解していかないと、高齢化で担い手もいない現状で、日本はまだ国土もあって、人もいるのであれば早い段階で何とか考えないと、農業やる人がそもそもいなくなってしまうですよ。輸入で賄えればいいですけど、世界の人口は増加しているので、今度は食料を取り合いになるかもしれないですよ。

和光市は都市農業で最先端を行っているんですけど、残すところは残してもらわないと、和光市は農地がなくなってしまいますよね。

【福田委員】

法人化というのはダメなんですか。みんなで農地を出資してみんなで社員になって働くという形で、そういうものになれば人も集まるんじゃないかなとも思うんですけども。

【田中委員】

別の地域で、農家さんが作った会社に行ったことがあるんですけど、1人1人の考えが強くて、うまくまとめるのは難しそうだなと思いました。

【田村委員】

引っ張ってってくれる人が1人いれば違うのかもしれないですけどね。

【郭委員長】

データで見ても、和光市の農地は全国平均より少なく、埼玉の中でも半分以下。そういう状況で単純に国の施策を和光市に当てはめていいのかなと思いますね。であれば、和光市は独自に、兼業農家がどうやって農地を維持していくのか、市がアイデアを出していくと良いかもしれませんね。

農業の重要性を再認識するために、協議会のような場で当事者としての意識を作っていくことが大事ですよ。農地が減っている状況なのに、市民の意見としては「もっとがんばれ」「やってほしい」というのであれば、市民側も何らかの形で責任をもって、例えば援農ボランティアだったり、コミットしてもらいたい。そういった現状の認識が無いままに農業だけやってほしいというのは一方的な想いになってしまいますよね。

市としては市民に、自分たちが農業の一翼を担っていくんだという意識をもってもらうような施策を考える。そのための意見交換をしていくような場が必要ではないでしょうか。言葉だけだとうまく進まないような気がしますね。

生産農家と消費者の意識がどうしても離れていってしまっているのでそこを近づけるようなことを行政がやっていくことが大事ですよ。それぞれの当事者だけではできませんからね。そうすると先ほどの区画整理の話も組み込んでいけると思います。

農業法人を作るのは一つのアイデアとも思います。ただ専業農家でやっていないと、二つの仕事をやることになってしまうので難しいのかもしれないですね。誰かが率先してやるというリーダーシップを発揮して、最初に動き出そうとする人がいないと難しいですね。

【郭委員長】

多くの意見いただきました。和光市都市農業振興計画中間見直しについては非常に大事な視点がたくさん入っています。問題なのは、ただ書いているだけではなく、具体的な実行に移すには市としてどうするか。そして、生産者さんや市民の協力を得るところまでいかないと、絵にかいた餅になってしまいますので、しっかり次のアクションを考えていただけたらと思います。

最後になりますが全体を通してご意見等ございますか。よろしいでしょうか。

では続きまして、その他について事務局から説明をお願いします。

【事務局】

事務局から今後の予定について説明させていただきます。本日皆様からいただきましたご意見を踏まえて改めて事務局で素案を調整をし、郭委員長にご確認いただいたあとに、皆様にもメール等で送付いたします。その後、農業委員会・市議会議長・市長への報告を行い、中間見直し結果とする流れになります。

【郭委員長】

委員の皆様から、全体を通して質問等ございますか。ないようでしたら、以上で本日の会議は終了いたします。事務局にお返しします。

4 閉会

【事務局】

本日の会議はこれで終了となります。皆様、委員会の運営に多大なご協力いただき、ありがとうございます。